

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年4月14日 (2011.4.14)

【公開番号】特開2009-185063(P2009-185063A)

【公開日】平成21年8月20日 (2009.8.20)

【年通号数】公開・登録公報2009-033

【出願番号】特願2009-120386(P2009-120386)

【国際特許分類】

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

C 0 7 C 273/18 (2006.01)

C 0 7 C 275/34 (2006.01)

C 0 7 C 67/08 (2006.01)

C 0 7 C 69/734 (2006.01)

C 0 7 C 227/18 (2006.01)

C 0 7 C 229/22 (2006.01)

C 0 7 C 217/58 (2006.01)

C 0 7 C 265/12 (2006.01)

C 0 7 C 69/96 (2006.01)

C 0 7 C 43/225 (2006.01)

C 0 7 C 281/20 (2006.01)

C 0 7 F 9/50 (2006.01)

C 0 7 D 233/60 (2006.01)

C 0 7 D 487/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 B 61/00 B

C 0 7 C 273/18

C 0 7 C 275/34

C 0 7 C 67/08

C 0 7 C 69/734 B

C 0 7 C 227/18

C 0 7 C 229/22

C 0 7 C 217/58

C 0 7 C 265/12

C 0 7 C 69/96 A

C 0 7 C 43/225 C

C 0 7 C 281/20

C 0 7 F 9/50

C 0 7 D 233/60 1 0 4

C 0 7 D 487/04 1 4 8

C 0 7 D 487/04 1 4 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月2日 (2011.2.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

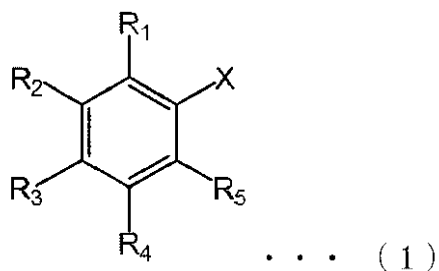
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

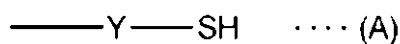
溶液組成及び / 又は溶液温度の変化に伴い選択的に晶析される、下記の化学式 (1) で示される、有機合成試薬を晶析させる工程からなる分離工程を含む有機合成反应用試薬。

【化 1】

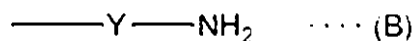


(式中、 R_1 、 R_3 、及び R_5 は、水素原子であり、 R_2 及び R_4 は、炭素数が 18 ~ 30 のアルコキシル基である。また、式中、X は、下記式 (A) から (H)、(M)、(M')、及び (N) で表される試薬活性部位を示す。

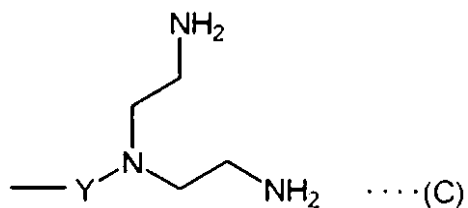
【化 2】



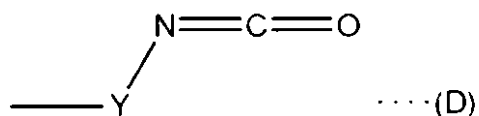
【化 3】



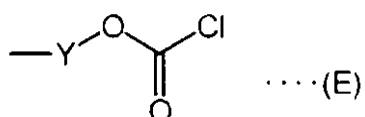
【化 4】



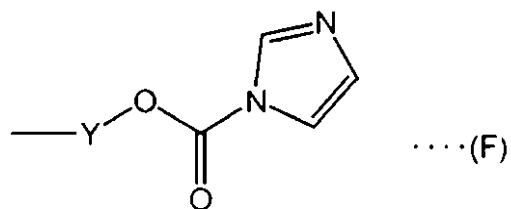
【化 5】



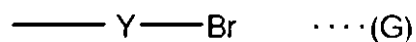
【化 6】



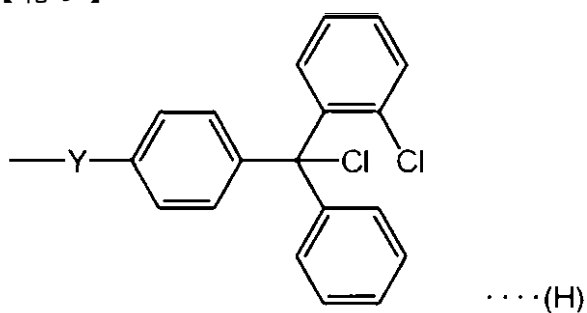
【化 7】



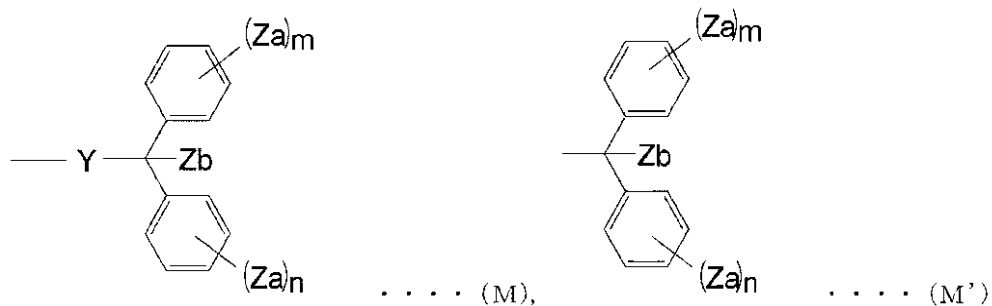
【化 8】



【化 9】



【化 10】



【化 11】



(式(A)から(H)、(M)、及び(N)中、Yは、炭素数1以上10以下のアルキレン基である。また、式(M)及び(M')中、m及びnは、それぞれ独立に0又は1であり、Zaは塩素原子、又は臭素原子であり、Zbはヒドロキシル基、塩素原子、又は臭素原子である。)

【請求項2】

前記化学式(1)中の試薬活性部位Xを表す前記式(A)から(H)、(M)、及び(N)中のYが、メチレン基である請求項1に記載の有機合成反应用試薬。

【請求項3】

前記化学式(1)中の R_2 及び R_4 が、炭素数18～22のアルコキシル基である請求項1又は2に記載の有機合成反应用試薬。

【請求項4】

前記化学式(1)中の R_2 及び R_4 が、ドコシロキシ基($C_{22}H_{45}O-$)である請求項1又は2に記載の有機合成反应用試薬。

【請求項5】

前記化学式(1)中の試薬活性部位Xが、前記式(M)、又は(M')で示される官能基である請求項1から4のいずれかに記載の有機合成反应用試薬。

【請求項6】

前記化学式(1)中の試薬活性部位Xが、ヒドロキシメチル基であり、 R_2 及び R_4 がドコシロキシ基($C_{22}H_{45}O-$)である請求項1に記載の有機合成反应用試薬。

【請求項7】

請求項1から6のいずれかに記載の有機合成反应用試薬を用いた有機合成反応方法であって、

前記化学式(1)中の試薬活性部位Xが反応に関与する反応系に、前記有機合成反应用試薬を溶解させて反応を行う反応工程と、

その後、前記有機合成反应用試薬、及び反応後の前記有機合成反应用試薬を分離させる分離工程と、を含む、有機合成反応方法。

【請求項8】

前記分離工程における有機合成反应用試薬及び反応後の有機合成反应用試薬を分離させる分離工程の少なくとも一つが、該有機合成反应用試薬を晶析させて分離する工程又は該有機合成反应用試薬を分離用溶媒に抽出して分離する工程である、請求項7に記載の有機合成反応方法。